

企業名：キトー

レポート名：統合報告書 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

将来の目指すべき姿については、社会の変化や新たな需要動向に対応できる体制を整えるという点が繰り返し述べられており、納得することができた。また、株主配当については配当性向の具体的な数値目標が書かれていたことで簡潔にわかりやすくまとめられているように感じた。

しかし、全体的には目標と手段に具体性がなく、信頼に足るエビデンスも少なかったため理想と現実と隔てりがあるのではないかと感じてしまった。また、具体性という面では掲げている将来像が通り一辺倒な理想像のように感じられてしまい、キトーの独自性やアイデンティティという点について理解することができなかった。

SDGs への取り組みは方針と具体的な取り組みについて各取り組み事にまとめられており、実際のデータを用いて説明がなされており納得することができた。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

競争優位性についてはあまり深く書かれていなかったように感じる。マーケットシェア率が高いという点のみ述べられていたが、その理由や今後の展開などには内容が発展しておらず、競争優位性を理解するには内容がやや不足しているように感じた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

前述の通り、シェア率が高いという点についてあまり深掘されておらず、競争優位性に持続性があるかどうかについては全く理解することができなかった。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

キトーの人材育成の方針として、ダイバーシティの推進という点を感じることもできた。報告書には従業員構成比率の 74%が外国籍と書かれており、生まれや国籍に関係なく

優秀な人材を登用しているという点で意欲的な現場を想像することができ、自らの価値向上を目指せそうな環境である。また、柔軟な働き方の例としてテレワークのいち早い導入を挙げており、ワークライフバランスへの意識は高いことがうかがえる。しかし、やはり具体性に欠けており、特に報告書に書かれていた、柔軟な働き方、従業員の特性を生かしたキャリア形成という 2 点については自らの価値向上に深くかかわる内容なのでもう少し詳細に知る必要があると考えた。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

上記 1~4 でも述べた通り、全体的に抽象的で根拠が薄いと感じてしまった。そのため、企業理念とは別に数値目標も定めるなど目標を現実落とし込む作業が必要であると考えた。一方、株主配当やコーポレートガバナンス、会社の体制など株主への報告については具体的かつ内容も充実していたため、今後はより一般に向けた内容を充実させていくことで世間からの認知も進み、新たな価値創造につながるのではないだろうか。その手始めとして一つ、変化する需要にどのように対応してきたのかについて内容を充実させていくことがいいのではないかと考えた。